

校長室だより NO4

2021年6月25日 柏市立土小学校 校長 梅津健志

デジタル機器と一緒に生きる

校長室だよりNo3でお知らせしたとおり、学校で使っているIpadやchromebookを本日持ち帰りをします。今回の持ち帰りは、ご家庭でインターネット回線に接続できるかどうかをチェックするためです。お手数をおかけしますが、接続についてよろしく願いいたします。

夏休みからは、学校で使っているものを家に持ち帰り、家庭での学習にも利用できるようにしていきます。学校でコンピュータを貸して、それを家に持ち帰って使う時代が遂にやってきたか！と思います。その今をSociety5.0の社会と言います。

Society 1は狩猟、2は農耕、3は工業、4は情報、そして5は仮想空間と現実空間を融合させた・・・と言われていています。今、私たちは4から5への途中にいます。

狩猟から農耕へは何千年もかけて移行したと習いましたが、4から5は速いですね。GIGAスクールのGIGAとは、グローバル・イノベーション・ゲートウェイ・フォーオールの略語です。確実に時代が変わることは事実だと歴史が証明をしています。

ここで私たち大人は、デジタル機器と一緒に生きる力をどうやって子供たちに育むかが役割となってきます。

持ち帰りの調査の際に家庭での利用状況をお伺いしました。状況は次のよう結果です。

ICT機器の所持について

専用のICT機器を持っていない=27% 共用で持っている=34% 何らかICT機器を持っている=39%

ICT機器の利用状況

学習に使う=17% YouTube娯楽=35% ゲーム=25% メールSNS=8% その他=10%
使わせていない=5%

YouTubeの視聴時間

30分以内=21% 1時間以内=21% 2時間以内=28% 3時間以内=8% 3時間以上=7%
見せていない=13%

この状況をどのようにご覧になられるでしょうか。Society5.0の時代を生きるためには、ICT機器を使いこなす力は必要ですが、ICT機器に使われてしまうことは、避けなければなりません。

既に4割近い子が専用機を持っているが、学習利用は2割弱、YouTube動画の視聴時間は1時間以上が4割以上という実態が見えてきました。保護者の皆さんの世代では、テレビの視聴時間を制限された記憶がある方が多いのではないのでしょうか？

今の子供たちはテレビは見ない世代と言われていています。みんなで共有する動画ではなく、パーソナルな情報・動画を楽しむ世代ということになります。

現実空間と仮想空間をうまく仕事や生き方に取り入れて行く社会を生き抜いていく力を育てるには、子供の時代にどのように使わせていけばよいか、まさに答えの無い課題に向き合っていることを感じます。

夏休みから始まる持ち帰りに向けて、学校から持ち帰る機器の家庭でのルールを検討しています。検討する上で前提となることは、がんじがらめのルールで縛っても子供の力にはなりません。ICT機器の利用は、個別性が高く、匿名性が高いという特徴があります。世の中全体がそうなっていることも感じます。従って、子供一人ひとりが自分でコントロールして使う力がついていくルール設定が必要だと考えます。この前提を保護者の皆様と共有し、共に同じ視点で指導していけるようにしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

よいご提案がありましたら、 tsuchi-e@kashiwa.ed.jpまでお願いします。